

目 次

はしがき

第 I 部 割合的責任の基礎理論

第 1 章	公平による割合的減責の妥当性	3
第 1 節	問題の所在	3
1	はじめに	3
2	従来 of 学説における議論状況	4
3	小 括——本章の検討課題と比較法研究の趣旨	11
第 2 節	ドイツにおける減責条項導入論とその後退	15
1	はじめに	15
2	ドイツ法アカデミー草案における減責条項	16
3	1960年代の減責条項をめぐる議論	18
4	減責条項導入論の後退	24
第 3 節	ドイツ協働過失制度における公平の意義	36
1	はじめに	36
2	協働過失制度の基本枠組み	37
3	割合的損害分配の衡量	40
4	協働過失制度の要件における公平の意義	45
5	協働過失制度の効果における公平の意義	52
第 4 節	小 括	52
第 2 章	ドイツにおける割合的責任論の今日の展開	57
第 1 節	はじめに	57
1	問題の所在——原因競合をめぐる諸課題	57
2	本章の目的	60

第2節 ドイツにおける割合的責任論の現況	61
1 はじめに	61
2 医療過誤における割合的責任論	64
2-1 「機会の喪失」論への関心／2-2 因果関係の蓋然性にもとづく責任	
3 大規模損害の発生事例における割合的責任論	86
3-1 統計データによる損害分配への関心／3-2 民法830条1項2文の解釈論への影響／3-3 経済分析を重視する論者からの反応	
第3節 割合的責任論の正統性	99
1 はじめに	99
2 動的システム論による割合的解決	100
3 危険増大論による割合的解決	105
4 考 察	110
4-1 動的システム論の妥当性／4-2 危険増大論の妥当性／4-3 考察のまとめ／4-4 補論	
第4節 小 括	125

第Ⅱ部 割合的責任の判断構造

第Ⅰ章 医療過誤における割合的責任	135
第1節 はじめに	135
1 因果関係の証明困難と割合的解決の現状	135
2 本章の目的	140
第2節 責任設定における割合的解決	141
1 検査義務違反	141
2 治療上の判断ミス	146
3 経過観察義務違反	149
4 説明義務違反	152
5 転送義務違反	155
第3節 責任充足における割合的判断	158

第4節 割合的責任の理論的内実	160
1 責任設定における割合的解決——狭義の割合的責任	161
1-1 違法性連関の存否不明以外の理由による割合的解決／1-2 違法性連関の存否不明を理由とする割合的解決	
2 責任充足における割合的判断	172
第2章 営造物・工作物責任における自然力競合による割合的減責	175
第1節 問題の所在	175
1 飛驒川バス転落事故1審判決の当否に関する議論	175
2 本章の視角	177
第2節 裁判例の動向	180
第3節 自然力競合による割合的減責の理論的内実	187
1 類型化の試み	187
2 「瑕疵論争」に対する本章のスタンス	189
3 外在的瑕疵のケースにおける割合的減責	192
4 内在的瑕疵のケースにおける割合的減責	200
第4節 ま と め	202
第3章 公害・環境訴訟における割合的責任	205
第1節 問題の所在	205
第2節 裁判例の動向	207
1 多奈川判決における割合的責任	208
2 西淀川一次判決における割合的責任	211
3 西淀川二次～四次判決における割合的責任	213
4 その他の大気汚染訴訟	219
5 水俣病東京判決と関西判決	222
第3節 割合的責任の理論的内実	226
1 割合的判断の基準としての「確率」と「心証度」	226
2 大気汚染に対する寄与度に応じた責任	230
3 因果関係論と他因子論の関係	232
第4節 ま と め	234

第4章	交通事故における素因減責	235
第1節	問題の所在	235
第2節	裁判例の動向	238
1	身体的素因の競合事例	238
2	心因的素因の競合事例	243
第3節	素因減責の理論的内実	246
1	裁判例の整理と検討課題の提示	246
2	帰責相当性と割合的減責との関係	250
第4節	ま と め	257
第5章	交通事故と医療過誤の競合	260
第1節	はじめに	260
第2節	裁判例の動向	260
第3節	共同不法行為構成から競合的不法行為構成へ	264
1	共同不法行為構成	265
2	競合的不法行為構成	267
3	共同不法行為構成の妥当性	271
第4節	競合的不法行為の効果	274
1	全部連帯責任の排除の方法	274
2	検 討	276
第5節	D ₁ とD ₂ が併存するケースの検討	279
第6章	被害者の自殺	280
第1節	はじめに	280
第2節	裁判例の動向	280
1	交通事故被害者の自殺事例	280
2	体罰自殺の事例	282
3	いじめ自殺の事例	286
第3節	死亡損害の帰責と割合的解決	289
1	はじめに	289
2	不法行為帰責論の新たな展開	290

3	被害者の自殺事例の帰責構造	295
4	割合的解決の可能性	298
終 章		303
第1節	割合的責任の具体像	303
1	「可能性」保護の正当化	303
2	行為を起点とする因果関係が妥当するケースにおける 割合的解決の可能性	306
2-1	危険性関連の強度にもとづく割合的解決	
2-2	「被害者側の択 一性」による割合的責任の正当化	
第2節	「事實的」因果関係の存否不明の取扱い	310
結 語		311

事項索引